

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
指標1	中心市街地に関する満足度	%	14	30	59	確定	○	あり	51	H24年2月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	駅周辺整備事業の完了により、市の玄関口としての新駅舎がオープンするとともに、変則交差点が改良され、渋滞が解消された。その他、地区内においては鯨ヶ丘地区や国道349号沿いなどに新規店舗がオープンし、中心市街地として活性化の兆しが見られることから満足度はあがっていると思われる	
指標2	歩行者の通行量	人/10時間	600	680	482	確定	×	あり	327	H23年10月	×	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input checked="" type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	計測地点において、調査時間内で最も歩行者の通行量が多かった時間帯は8時から9時で、主に高校へ通学する学生の通行が多かったことから、事後評価と同様高校の生徒数の減少や通学路の変更が原因として考えられる。	調査地点における平日昼間の歩行者数の減少は依然として続いているが、市民による新規出店、地元有志による地域活性化イベントの実施が見られ、坂のある歴史的な街並みや雪村うちわなどの伝統工芸品を生かし、大学生の調査研究や見学ツアーなどが開催されるなど、地域の活力は低下しておらず、むしろ、震災以降、そうした地域活性化に対する機運がよりいっそう高まっているように感じられる。
指標3	市民バスの利用者数	人/年	45,000	47,000	42,676	確定	×	あり	35,872	H24年6月	×	<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	事後評価時と比較しても市内の人口減少が進行し、また、市民バスから乗合タクシーや高齢者の外出支援サービスに利用者が移行しているため。	市民バスの利用者数は依然として減少しているが、乗合タクシーや高齢者の外出支援サービスの利用者数は増加しており、利用者にとってはそれぞれ利用しやすい交通機関を利用するよう差別化が図られてきていると思われる。こうした背景のもと、市としては、バス事業者と連携し、高校生の通学定期券購入に対する助成制度や、水郡線の発車時刻に合わせ路線バスのダイヤ改正を行うなど、より利便性の高い公共交通体系の整備に向け各種施策を実施している。
指標4	JR常陸太田駅利用者数	人/日	2,612	3,260	2,342	確定	×	あり	2,246	H24年9月	×	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	利用者数は依然として減少しているが、人口減少を考慮すると、およそ横ばいと考えられる。新駅舎オープンを機に、地元町会や住民を中心とした駅前広場イベントの実施や、水郡線利用促進会議の設立など水郡線や駅周辺地域の活性化に向けた市民意識の向上が見られ、駅を中心としたにぎわいの創出が図られてきている。また、市としても利用者数の増に向け、JRやバス事業者と連携したイベント列車の運行、駅からハイキングの実施、水郡線の発車時刻に合わせ路線バスのダイヤ改正など、各種施策を実施している。	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	イベントの入込客数	人/年	44600	69,500	確定 見込み			9300	H24年6月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input checked="" type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	東日本大震災、福島第一原子力発電所の事故による風評被害等からの復旧を最優先としたため、市としては一部のイベントを中止とせざるを得ず、一時的にイベントによる交流人口は減少した。しかし、地元有志により、鯨ヶ丘地区や新駅舎のイベントスペースを活用した復興イベントが開催されるなど、震災を契機に住民がまとまり住民が主体となったにぎわいづくりの機運が高まってきていることから、そうした取り組みを持続可能なものとするべく、市として後押ししていく必要がある。	
その他の数値指標2	市民バス及び乗合タクシーの利用者数	人/年	45000	48,059	確定 見込み			43301	H24年6月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	市民バスと乗合タクシーを合算しても利用者数は減少しているが、市の人口減少の状況を考慮すると微減と考えられる。市民の足の確保、利便性の向上に向け、引き続き、一体的な公共交通体系の整備に努めていく必要がある。	
その他の数値指標3	刑法犯認知件数	件/年	624	431	確定 見込み			398	H23.年6月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	常陸太田市内の刑法犯認知件数は減少を続けており、安全・安心なまちづくりが図られている。	
その他の数値指標4	郷土資料館来館者数	人/年	3361	10,543	確定 見込み			5155	H24年6月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input checked="" type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	平成23年度については、左記の理由により来館者数が大幅に減少したが、平成22年度については増加していた。早期の別館の復旧を目指し、郷土資料館の来館者を増やすとともに、鯨ヶ丘地区全体のにぎわいづくりのため、住民と一体となった取り組みをすすめていく必要がある。	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
<ul style="list-style-type: none"> 成果を持続させるために行う方策 	JR常陸太田駅前の駐車場やバスターミナル等の整備	・JR常陸太田駅周辺に、パークアンドライドを意識した無料駐車場や月極め駐車場のほか、駅舎に併設された駐輪場を整備した。また、鉄道利用等の乗り換えの拠点としてふさわしい、バスやタクシーの乗降場、待機場を備えた交通広場を整備した。	・駐車場の整備により、パークアンドライドが可能となり、利便性が向上した。また、ユニバーサルデザインを採用した交通広場の整備により、安全に便利にバスやタクシーを利用することが可能となった。	・駅利用者数の増に向けたJRやバス事業者等と連携した各種PRを実施するとともに、駅前広場等を活用した住民主体によるイベントの開催を支援し、駅を核としたにぎわいの創出を図る。
	市道整備の完了による、轍ぼれ等の解消、水はねや乗り心地の改善	・市道整備事業	・轍ぼれ等の解消、水はねや乗り心地の改善による、安全で安心な市道の整備が図られた。	・市道の点検・管理を行い、歩行者、車利用者の快適性を向上していく。
	市民の日常生活の足の確保	<ul style="list-style-type: none"> 市民バス運行 市乗合タクシー運行 公共交通計画の策定 JR水郡線利用促進会議の設立 高校生定期券補助 水郡線接続に合わせた路線バスダイヤの改正 	<ul style="list-style-type: none"> 市民バス、乗合タクシーの運行により、公共交通の利便性が向上し、路線バスを補完する身近な公共交通が確保されている。 高校通学者のバス定期券補助を行うことにより、公共交通利用者の増加が図られるとともに、水郡線接続に合わせた路線バスのダイヤ見直しにより、通勤、通学者の利便性の向上が図られた。 	・利便性の更なる向上を目指し、移動ニーズに対応した公共交通体系の再構築を図る。
	中心市街地の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 空き店舗の利活用推進 イベント開催、開催支援 PR活動 大学生によるデザイン提案 	<ul style="list-style-type: none"> 空き店舗を活用した菓子店、雑貨店が新規オープンするとともに、イベント開催(雑祭り、ウォーキングイベント、夜市、駅イベントスペース活用イベント等)による来訪者が増加した。 	・空き店舗の活用促進と継続的なイベントの実施により来訪者の増を図る必要がある。
改善策 <ul style="list-style-type: none"> まちづくりの目標を達成するための改善策 残された課題・新たな課題への対応策 その他 必要な改善策 	常陸太田駅前交差点の形状の改善による交通負荷の軽減。	変則的な形状を解消するための交差点改良工事の実施	・渋滞の解消、交差点通過時間の短縮	
	市内公共交通の体系の整理	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通計画の策定 市民バス運行 市乗合タクシー運行 JR水郡線利用促進会議の設立 高校生定期券補助 水郡線接続に合わせた路線バスダイヤの改正 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな公共交通計画を策定するため、市が抱える公共交通の問題点・課題の洗い出しを行っており、今後問題解決の共通認識を図っていく。 	・新たな公共交通の構築を図るため、今後5年間の公共交通計画を策定する必要がある。
	歩行者の通行量の増加	<ul style="list-style-type: none"> 空き店舗の利活用推進 イベント開催、開催支援 PR活動 	<ul style="list-style-type: none"> 商店会や鉄道事業者の協力によるウォーキングイベントが開催される等、来訪者を呼び込む仕掛けづくりが進められた。 空き店舗を活用した店舗が出店するなど、空店舗の減少に努めているが、景気低迷により依然厳しい状況にある。 	・今後、継続して新鮮かつ魅力的なイベントや催しを開催するとともに、空き店舗の減少に努めていく。
	駅周辺整備工事完了後の利用者の利便性向上や安全確保	・歩行者・自転車・自動車などの動線の確認	・特に事故等は発生していない	・駅利用者の更なる利便性の向上に努めていく。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
中心市街地の居住環境の整備	中心市街地(鯨ヶ丘地区)に若者世帯等が定住できる集合賃貸住宅を建設する方に対し、その建築に係る費用の一部を助成し、集合賃貸住宅の建設を促進する。	平成25年4月	不動産所有者、事業者、地元商店街、町会との連携強化。